

夏の原っぱで出会った青年と純朴な少女が夢中でセックス 絶望の最果てを知る二人の愛の埋め合わせ

青年はラッパを吹いていた。

青々と草木の茂る夏の河川敷の一角。

1週間後に控えた演奏会のためだ。

孤独な青年は地域の吹奏楽部に所属することでずっと一人でやっていた趣味の音楽と所属感を一致させた。

ふと一人の少女が通りかかった。

口を尖らせて小さく息を吐く。

体の楽器を鳴らしながら。

家出の途中だった。

両親が離婚を間近に裁判沙汰の大喧嘩をし、兄弟もいなくな
った。たった一人で生きていこうと決めた矢先。遠くの街ま
で手持ちの金を頼りにやってきた。どこかで働こうと考えて
いた・・・・・・・・。

二つの音が二人を近づけた。

出会った二人はどこかの何者かの後押しで、自然と口づけを
交わしていた。

「これまでどんな人生を歩んできたの??」

この街にずっと住む孤独だった青年と、遠くからはるばるや
ってきた家で少女。

口づけは続く。

互いの絶望は最たるもの。

この世の全て、苦汁を味わいつくした者同士の

愛

(体験版はここまでです)